

## 平成 25 年度第 2 回臨時理事会議事録

日時：平成 25 年 6 月 22 日(土) 11:00～12:20

場所：都市センターホテル 3 階 コスモスⅡ

出席者：

理事長：小西 郁生

副理事長：岡井 崇、落合 和徳

理事：岩下 光利、石原 理、宇田川 康博、大道 正英、片渕 秀隆、嘉村 敏治、吉川 史隆、  
木村 正、工藤 美樹、小林 浩、堂地 勉、深谷 孝夫、平松 祐司、水沼 英樹、  
水上 尚典、峯岸 敬、吉川 裕之、吉村 泰典

監事：武谷 雄二

第 68 回学術集会会長：井坂 恵一

幹事長：澤 倫太郎

幹事：上田 豊、金内 優典、岸 裕司、北澤 正文、小林 陽一、榊原 秀也、佐藤 豊実、  
下平 和久、高倉 聡、多賀谷 光、津田 尚武、永瀬 智、難波 聡、増山 寿、  
山下 隆博

総会議長：佐川 典正

総会副議長：内田 聡子、清水 幸子

理事会内委員会委員長：齋藤 滋、竹下 俊行、竹田 省

第 66 回プログラム委員長：濱田 洋実

陪席：矢野 哲

弁護士：平岩 敬一

事務局：桜田 佳久、青野 秀雄、小山 圭子

11 時 00 分 理事長、副理事長、常務理事、理事の総数 25 名のうち、21 名が出席し（海野信也理事、上妻志郎理事、田中憲一理事、八重樫伸生理事は欠席）定足数に達したため、小西郁生理事長が開会を宣言した。小西郁生理事長が議長となり、議事録署名人として、理事長、武谷雄二監事の計 2 名を選任し、これを承認した。

冒頭に前幹事長の矢野哲先生への感謝状贈呈と矢野先生からの挨拶があった。

### I. 平成 25 年度第 1 回理事会議事録の確認

原案通り、承認した。

### II. 業務担当常務理事報告

#### 1) 総務 (岩下光利理事)

〔I. 本会関係〕

(1) 会員の動向

①磯島晋三名誉会員(兵庫)が 5 月 31 日にご逝去された。(弔電、供花、香典は辞退)

(2) 日本産科婦人科学会フォーラム「わが国の少子化問題を考える」について [資料：総務 1]

**岡井崇副理事長**「本会の総会は決算承認のために年 2 回行われるようになったが、今回のフォーラムのように、本会が社会に繋がる機会を定期的に持つ場として 6 月の総会の前後の時間を活用してはどうか。前広に企画して臨めば、実りのあるものになると思う。」

(3) 平成 25 年度の全会各種会議予定の一部変更について [資料：総務 2]

① 2 月 28 日・3 月 1 日に予定されていた第 4 回理事会ほかの会議を、2 月 21 日・22 日 (場所：JP タワーホール) に変更したい。

② 2 月 7 日に予定されていた第 6 回常務理事会を 3 月 14 日に変更したい。

なお平成 26 年度の年間予定については、次回理事会にお諮りする予定であるが、ここでは 6 月 7 日の第 1 回理事会を 5 月 31 日に変更する提案をお示ししている。

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(4) 厚生労働省健康局が「HPV ワクチン接種の積極的な勧奨を一時中止する。しかし、接種自体を中止するわけではなく、接種希望者については定期接種として接種可能な環境を維持する」旨の勧告を発表した。これについて本会からもコメントを発表したい。[資料：総務 2-1、2-2]

**吉川裕之理事**「本会コメントについて、重篤な有害事象が『発生した』というより『報告された』とした方が正確ではないか。」

**小西郁生理事長**「そのように修正したい。」

**落合和徳副理事長**「元国立感染症研究所の岡部信彦先生によれば、ワクチン接種との因果関係はまだ把握中だが有害事象の報告体制は整ってきたこと、勧奨を一時中止しても接種を受けて有害事象が起こった場合には国の救済制度が適用されるということである。」

**吉村泰典理事**「厚生労働省の委員会には産婦人科の先生が入っていない。本会としては、厚生労働省に対して今回のような判断を行う場合には産婦人科の意見を聞くことが必要である、との姿勢を示す必要がある。今後数か月かけて本件について検討するようだがそこに産婦人科の専門家が入れるような仕組みを作るべきであろう。」

**石原理理事**「HPV ワクチンは実際には小児科で打っていることが多いようだが、本件については他学会や医師会などを含めた医療側からの意見として示していくことがよいと思う。」

**小林浩理事**「現時点では何が正しいかの判断は難しい。重篤な有害事象が発生しているのは間違いないうようだが、現時点でそれと複合性疼痛症候群との因果関係をつけてしまうことには問題がある。」

**吉川裕之理事**「複合性疼痛症候群との表現は入れない方がよい。」

**嘉村敏治理事**「同感である。」

**小西郁生理事長**「修正したい。」

**片渕秀隆理事**「認可される前の治験において、この症状の発生率はどうだったのか。」

**吉川裕之理事**「治験は有効性と安全性のチェックをポイントとして日本では 20 歳から 25 歳で行われるが、10 歳から 15 歳では抗体のレスポンスだけを見ており治験中に有害事象は発生していない。ただ実際にワクチンを打つ対象の 10 歳代のデータは少なく、抗体反応の強さが違う可能性もある。報告体制が整うことでもっとデータが取れるようになったところで判断していくしかない。」

**木村正理事**「FIGO の理事会で本件を説明したが、各国ともそのような事象は全く聞いたことがない、との反応であり、本件は日本だけに起こっている事象のようである。」

一部修正のうえ、本会コメントを公表することにつき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(5) 最高裁判所からの鑑定人候補者の推薦依頼について [資料：総務 2-3、2-4]

**岩下光利理事**「岡井崇先生が中心となって提出された鑑定人推薦委員会の委員候補者についてお諮りしたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(6) 生体内圧力の計量単位の変更を含む、計量法改正の移行猶予期間が本年9月末に切れることになっているが、日本医師会では医療現場の実情を無視しているとしてこれに反対意見を表明している。本件についての本会の対応およびそれについての産婦人科に特化した理由の有無について、確認する必要がある。[資料：総務2-5]

**落合和徳副理事長**「先日の日本医師会疑義解釈委員会で出たテーマだが、国際基準に移行することは決まっているが実態として世界各国は従来通りのままであり、医師会としても実情把握をしたい、ということである。産婦人科についてもそれに同調して反対するというのでよいと考える。」  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(7) 若手医師確保ワーキンググループ報告 [資料：総務2-6]

**平松祐司委員長**「5月に全国産婦人科教授あてに、若手医師を増やすために6、7月に説明会を行ってほしい、Project plus Oneとして昨年プラス1名の入局者増を目指してほしい、という内容の手紙を送った。その施策としてALSOなどを使ったセミナーの利用などをお願いしたところ、12大学で決定、10大学で日程調整中である。」

(8) 専門委員会

(イ) 生殖・内分泌委員会

① 不妊治療で妊娠前に実施される検査に風疹抗体検査を含めることについて、前回理事会での協議を受けて生殖・内分泌委員会で検討した結果、「妊娠を希望する患者に対する風疹の罹患予防に関するお願い」をお知らせとして示すことにしたい。[資料：総務2-7]

**峯岸敬委員長**「二つの案が出ているが、『パートナー』という言葉を入れるかどうかをご議論いただきたい。」

**水上尚典理事**「妊婦が感染する機会は家族内の誰かが持ちこむケースが多いが、子どもは接種を受けているが夫は行動半径も広く注意が必要である。」

**水沼英樹理事**「風疹は飛沫感染であり、家族の誰かが感染していると広がる可能性はある。ただ『パートナー』という言葉には違和感がある。」

**石原理理事**「『・不妊治療を行う女性とその家族に対し』とすればよいのではないか。」

石原理理事の提案につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(ロ) 婦人科腫瘍委員会

① 日本乳癌学会はガイドライン2013年版CQ33「BRCA遺伝子に変異を有する女性に対する卵巣がん検診の有効性」に対する本会の意見を受けて一部修正を行った。

[資料：総務3]

(ハ) 周産期委員会

① 硫酸マグネシウム注射剤の長期投与について [資料：総務4]

**岩下光利理事**「FDAの勧告に対して、本邦での対応を周産期委員会で検討しているところである。FDAの勧告については周知するものの、日本では安全性調査がすでに行われていて有害事象が発生していないことから、基本的には使用に関して制限を設けることはしない、という方向でまとめる予定である。」

② 産婦人科と小児科の合同委員会を7月16日に開催する。なお、産婦人科側のメンバーは、今回、

海野信也先生の代わりに竹田省先生が加われ、久保隆彦先生、齋藤滋先生、増崎英明先生、松田義雄先生の5名である。

(二) 女性ヘルスケア委員会

①ホルモン補充療法ガイドライン頒布状況について

6月12日現在、入金済7,034冊、校費支払のため後払希望 29冊。

②プレフェミンについての本会回答について

第1回 理事会の議論を受けて、プレフェミン検討委員会および理事会メンバーで協議して回答を作成した。[資料：総務5]

**堂地勉委員長**「再度、委員会で検討した結果、販売リスクは高くなくメリットはあるとした上で、3点の要望を取りまとめた。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

[Ⅱ. 官庁関係]

(1) 厚生労働省

①同省医政局総務課より、「広告が可能な医師等の専門性に関する資格名等について」の一部改正通知を受領した。本会機関誌に掲載して会員への周知を図りたい。[資料：総務6]

[Ⅲ. 関連団体]

(1) 日本卵子学会

日本卵子学会から平成25年度生殖補助医療胚培養士資格認定審査を行い、合格者を発表したとの報告があった。[資料：総務7]

(2) 日本視能訓練士協会

同協会から、目の健康チェックシートの案内を受領した。[資料：総務8]

(3) 臍帯血による再生医療研究会

同研究会のキックオフ記念講演会（平成25年7月13日、一ツ橋講堂）の案内を受領した。

(4) 予防接種推進専門協議会

「今後、国内で開発されることが重要と考えられるワクチンとその理由」について、同協議会が厚生労働審議会予防接種・ワクチン分科会研究開発及び生産・流通部会で説明するにあたり、本会からの要望提出を求めて来たので、これに回答した。[資料：総務9]

[Ⅳ. その他]

(1) 中外製薬株式会社より、本会から推薦した5名の評価委員による「抗インフルエンザウイルス薬投与妊婦の出産と小児に対する特定使用成績調査」症例評価検討会の第2回目会議の開催依頼を受領した。

2) 会 計 (岡井 崇副理事長) 特になし

3) 学 術 (峯岸 敬理事)

(1) 学術委員会

(イ) 会議開催

①学術講演会評価委員会を7月2日に開催する。

(2) プログラム委員会関連

(イ) 第65回学術講演会プログラム委員会

①第65回学術講演会報告 [資料：学術1]

**金内優典委員長**「第65回学術講演会の参加者は会員4,368名を含む5,348名、口演プログラム演者数362名、ポスター発表1,344題であった。」

(ロ) 第66回学術講演会プログラム委員会 特になし

(ハ) 第67回学術講演会プログラム委員会 特になし

4) 編集 (上妻志郎理事欠席につき、山下隆博主務幹事)

(1) 会議開催 なし

(2) 英文機関誌 (JOGR) 投稿状況：2013年投稿分 (6月10日現在)

投稿数547編 (うちAccept 44編、Reject 235編、Withdrawn/Unsubmitted 94編、Under Revision 33編、Under Review 141編、Pending 0編、Expired 0編)

(3) JOGR AE について

JOGRのAEに関して、負担が大きくなっているのご指摘があり、増員を予定している。AEの選考方法、任期、委嘱状に関しても規定を設けたく、平成25年度の編集での検討を依頼したい。

(4) 学会雑誌ならびに学会発刊書籍転載許諾について

平成23年4月より転載に関する規定に添って対応してきたが、内容が多岐に亘り見直しが必要になったため見直しを検討した。

各委員会委員の負担を少なくするためにも事務的に対応ができる形での規定の変更を考えている。

(5) JOGR Impact Factor (2012年)

2012年のImpact Factorが発表になった。JOGRは0.841であり、ランクは77誌中64位である。

**山下隆博幹事**「昨年の0.942から低下している。しかしその要因を分析すると、引用数は順調に増加しているが雑誌掲載本数が増加しているために低下したもので、よい論文は増えている。」

5) 渉外 (木村 正理事)

(1) 会議開催

6月22日、第1回FIGO 2021 招致委員会を開催した。

[FIGO 関係]

(1) FIGO Executive Board Meeting (6月15~16日、於：ロンドン) に本会より、木村正渉外担当常務理事が出席した。 [資料：渉外1-1、1-2]

**木村正理事**「FIGO の理事会は年 1 回、ロンドンとロンドン以外で交互に開催されるが、来年の理事会を日本で開催しないかとの打診があった。これには費用がかかるが FIGO2021 招致には有用との考え方もある。ご意見をいただきたい。」

**岩下光利理事**「多くの FIGO の役員が参加する場であり、FIGO2021 招致のためにはよいアピールの場と考える。多少の費用はやむをえないだろう。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

[AOFOG 関係]

(1) AOCOG2013 (10 月 20～23 日、於：タイ バンコク) について [資料：渉外 1]

①10 月 22 日開催の総会に本会より木村正渉外担当常務理事、および役員 1 名を派遣の予定である。

②次期 AOFOG 役員推薦について

**木村正理事**「現在の Oncology Committee Chairman の落合和徳先生と Urogynaecology Committee Chairman の古山将康先生は継続でお願いしたいと考えているが、このほかに役員および委員長への立候補意向がある先生がおられたらご一報いただきたい。」

[ACOG 関係]

(1) 第 66 回日産婦学会学術講演会に於ける Exchange Program について、ACOG 役員 3 名、Director 1 名、若手医師 6 名を招待する旨、Executive Vice President Dr. Lawrence へ文書を発信した。

(2) 62<sup>nd</sup> ACOG Annual Clinical Meeting (2014 年 4 月 26～30 日、於：シカゴ)に本会より、小西郁生理事長、峯岸敬第 67 回学術集会長、木村正渉外担当常務理事を派遣の予定である。

[SOGC 関係]

(1) 69<sup>th</sup> Annual Clinical Meeting (6 月 11～14 日、於：カルガリー) に、本会より上田豊渉外主務幹事および若手医師 3 名を派遣した。 [資料：渉外 1-3]

[KSOG 関係]

(1) The 99<sup>th</sup> Annual Congress of KSOG 2013 & the 18<sup>th</sup> Seoul International Symposium(9 月 27～28 日、於：ソウル)にて行われる日韓台 Exchange Program に、本会役員として小西郁生理事長、峯岸敬第 67 回学術集会長、木村正渉外担当常務理事を派遣する予定である。

[その他]

(1) 22<sup>nd</sup> Malaysian International Congress of O & G(5 月 30 日～6 月 2 日、於：クアラルンプール)にて JSOG シンポジウムを開催し、木村正理事、峯岸敬理事、三上幹男教授が講演を行った。

(2) カンボジア産科婦人科学会（8月9日、於：プノンペン）に国立成育医療研究センター久保隆彦先生、および東北大学豊島将文先生を派遣し、産科出血および子宮頸がんに関する講義と指導を行う予定である。木村正渉外担当常務理事も同行し、カンボジア産科婦人科学会への本会の協力について協議する予定である。

(3) ドイツ産科婦人科学会との Exchange Program について [資料：渉外2]

**木村正理事**「いままで行ってきた日独シンポジウムは学会の事業ではなかった。今後は学会ベースとして若手の Exchange Program をスタートさせる方向でドイツ側と交渉中である。」  
本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 6) 社 保 (吉川裕之理事)

**吉川裕之理事**「第3回目の公知申請の募集が行われるとのことで、そうすると1~2か月で申請の準備する必要がある。」

**落合和徳副理事長**「医療上の必要性の高い未承認薬・適応外薬検討会議に出ているが、適応外薬等については広く情報を集めるため、今後も継続的に行う予定である。今回間に合わなくても次があるので、各分野でぜひ情報を集めていただきたい。また米FDAで承認が得られているが日本で未承認の医薬品のリストが入手できそうなので、それも検討していただきたい。」

## 7) 専門医制度 (吉川史隆理事)

(1) 第29回日本医学会総会2015 関西から、同総会参加者に本会の専門医単位が取得できるよう承認依頼があった。本会として取得可能の旨を回答した。[資料：専門医1]

## 8) 倫理委員会 (落合和徳委員長)

(1) 本会の見解に基づく諸登録（平成25年5月31日）

- ① ヒト精子・卵子・受精卵を取り扱う研究に関する登録：44 研究
- ② 体外受精・胚移植の臨床実施に関する登録：578 施設
- ③ ヒト胚および卵子の凍結保存と移植に関する登録：578 施設
- ④ 顕微授精に関する登録：521 施設
- ⑤ 非配偶者間人工授精に関する登録：15 施設

(2) 着床前診断に関する臨床研究申請・認可について

6月10日現在申請 336 例 [承認 284 例、非承認 4 例、審査対象外 20 例、取り下げ 2 例、照会 17 例、審査中 9 例]（承認 284 例のうち 7 例は条件付） [資料：倫理1]

(3) 「出生前に行われる遺伝学的検査および診断に関する見解」委員会提案について会員から寄せられたご意見に対する回答案 [資料：倫理2]

回答案につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

## 9) 教 育 (八重樫伸生理理事欠席につき、永瀬智主務幹事)

(1) 会議開催 なし

(2) 西日本高速道路エリア・パートナーズ倶楽部奨学金について

(3) 産婦人科医育成奨学基金による海外派遣について

①2013年9月27日～28日開催の The 99<sup>th</sup> Annual Congress of KSOG 2013 & the 18<sup>th</sup> Seoul International Symposium への派遣募集を行ったところ、16名の応募があり下記5名を書類選考した。

田山 親吾	熊本大学
高取 恵里子	岩手医科大学
山本 拓郎	京都府立医科大学
牛田 貴文	名古屋大学
只川 真理	東北大学

②2014年ならびに2015年海外派遣者募集

2014年ACOG・TAOG、2015年ACOG派遣者の募集を開始した（締切：6月末日）。

なお、今回から派遣予定者については学術講演会時 International Session への応募が必須条件となり、応募のない場合には派遣を取り消す場合がある。

(4) 産婦人科研修の必修知識 2013 冊子版発刊について

会員からの要望も寄せられたので、産婦人科研修の必修知識 2013 冊子版（紙媒体）を8月10日を目処に発刊する予定である。頒布価格 10,000 円（税・送料込み）で、2011年版をさらにブラッシュアップし練習問題の増加をはかっている。

(5) ICD-10 に関する意見聴取

ICD-10 の一部改訂に係る意見について日本医学会から日本産婦人科学会に依頼があり、産婦人科関連の用語については教育委員会で対応しているので教育委員会委員にご協力をお願いした。

産婦人科関連の ICD-10 を産科領域、婦人科領域に分け専門領域を中心に確認いただき、現在の分類が学術的合意と食い違っているものの指摘を依頼した（6月21日締切）。

(6) 平成 25 年度専門医認定筆記試験問題作成について

作成委員会で3回の集合委員会を開き各分野で検討を進めたので、まとめの段階に入っている。

(7) 「産婦人科研修の必修知識 2013 電子版」購入用 ID・パスワード発行状況

(2011年冊子版購入済みの方専用)

6月7日現在、145名の申請があった。

(8) 2013KSOG コンダクターを阪埜浩司幹事に依頼した。

(9) 「産婦人科研修の必修知識 2011」頒布状況について

6月12日現在、入金済 6,926 冊、校費支払のため後払希望 37 冊。

(10) 「若手のための産婦人科プラクティス」頒布状況について

6月12日現在、入金済 2,131 冊、校費支払のため後払希望 28 冊。



(11) 「用語集・用語解説集」頒布状況について

6月12日現在、入金済1,776冊、校費支払のため後払希望46冊。

10) 地方連絡委員会 (落合和徳副理事長) 特になし

### Ⅲ. 理事会内委員会報告並びに関連協議事項

1) 広報委員会 (嘉村敏治委員長)

(1) 会議開催 なし

(2) JOB-NET 公募情報について [資料: 広報1]

①掲載対象施設の拡大について

嘉村敏治委員長「JOB-NET 掲載は公的病院が原則であるが、徳之島の医療事情を勘案して民間病院である徳州会病院の掲載を認めるかについて検討した。その結果、地方自治体や当該県の産科婦人科学会会長を通して申し込みがあれば掲載を認めることにしたい。」

本件につき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

(3) ACOG Website 会員専用ページログイン可能人数について [資料: 広報2]

(4) ホームページアクセス状況について [資料: 広報3]

(5) ホームページ過去の学術講演会ページに第1回からの日産婦学会、および過去に開催された国際学会を掲載した。

2) 未来ビジョン委員会 (吉村泰典委員長) 特になし

3) 震災対策・復興委員会 (岡井 崇委員長) 特になし

4) 診療ガイドライン委員会 (吉川裕之学会側調整役)

(1) 産科編委員会 (水上尚典委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン—産科編2011」頒布状況について

6月12日現在、入金済15,531冊、後払希望33冊。

(2) 婦人科外来編委員会 (八重樫伸生委員長)

①「産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編2011」頒布状況について

6月12日現在、入金済11,808冊、後払希望18冊。

5) コンプライアンス委員会 (平松祐司委員長) 特になし

6) 医療改革委員会 (海野信也委員長) 特になし

7) 男女共同参画・女性の健康週間委員会（竹下俊行委員長） 特になし

8) 若手育成委員会（齋藤 滋委員長）

(1) 会議開催

①第7回産婦人科サマースクール若手医師打合会を6月28日に開催する予定である。

②第7回産婦人科サマースクール腫瘍分野打合会を7月20日に第54回日本婦人科腫瘍学会会場において開催する予定である。会場を提供していただいた第54回日本婦人科腫瘍学会会長落合和徳先生に感謝したい。

(2) 第7回産婦人科サマースクールについて

①6月6日現在応募状況は143名、応募締切は6月30日午後5時である。

②小西郁生理事長の指示により、サマースクールのリーフレット・ポスター（PDF）を各大学教授に送信した（6月6日）。

(3) 第4回産婦人科スプリング・フォーラムについて

理事会との会期の重複があったが予定通り下記日程で開催の予定である。

会期：平成26年3月1日（土）2日（日）

会場：京都平安ホテル

またスプリング・フォーラムの内容に関してご理解いただけていない面もあるようなので第3回スプリング・フォーラムの様子を撮影したDVDを各大学ならびに各都道府県産婦人科医会にも送付してあるのでご覧いただきたい。

9) 臨床研究審査委員会（水沼英樹委員長） 特になし

10) 医療安全推進委員会（岡井 崇委員長） 特になし

11) 公益事業推進委員会（石原理委員長） 特になし

12) 情報管理委員会（竹田省委員長）

苛原稔先生より申請のあった周産期登録データベースの使用申請について、通信協議の上、条件付き承認とした。[資料：情報管理1]

13) 婦人科領域のロボット支援下腹腔鏡手術に関する委員会（井坂恵一委員長）

(1) 婦人科悪性腫瘍に対するロボット支援下手術に関する指針について [資料：ロボット1、2、3] 井坂恵一委員長「前回の議論を踏まえて指針の一部修正を行い、報告書および申請書のフォーマットを作成した。」

小西郁生理事長「平岩敬一弁護士からのアドバイスもあり、これをホームページに1～2か月掲載して会員からご意見をいただくようにしたい。」

委員会からの提案およびホームページで意見を聴取することにつき、特に異議はなく、全会一致で承認された。

IV. 平成25年度定時総会運営について

(1) 代議員からの質問・要望事項 [資料：総会 1]

V. その他      なし

以上